

# ボランティアコーディネーションについての一考察

ードイツ・ミュンヘンのストリートライフ・フェスティバルを題材にー

櫻井 由美子

## 要 旨

ボランティア活性化のうえで、ボランティアコーディネーションは欠かせないであろう。このようなボランティアコーディネーションについての研究や報告は、まだまだ少ないのが現状である。そこで、本研究では、ドイツにおけるストリートライフ・フェスティバル (Streetlife Festival) で行われていたボランティアコーディネーションについて報告し、そこでのボランティアコーディネーションの特徴について考察する。

ストリートライフ・フェスティバルは、環境保護団体が生態学的観点から主催する市民祭りである。多様な団体が出展・出店することから、集まる人々も多様である。このような場で、ボランティア団体およびボランティアコーディネート団体は、それぞれの活動に関する広報やボランティア活動の参加者募集を行っている。

本研究では、まず、ストリートライフ・フェスティバルとそこでのボランティアコーディネーションの概要について、視察・調査した内容をもとに記述する。さらに、それを踏まえ、ストリートライフ・フェスティバルにおけるボランティアコーディネーションの特徴について考察する。その結果、1) ボランティアコーディネーションのアウトリーチ 2) 各種機関の連携 3) インターネットの活用 4) 生態学的アプローチによるボランティアコーディネーションの4つの点において、ストリートライフ・フェスティバルにおけるボランティアコーディネーションは特徴的であるという結論を得た。

## 1. はじめに

ボランティア活動の活性化が求められている。ボランティア活動の活性化は、ボランティアを受け入れる側にとっても、ボランティア活動に参加する者にとっても、大変有益である。しかしながら、現状として、ボランティア活動の活性化が難しい状況も存在する。たとえば、石井 (2003) によると、ボランティア活動への関心が高まってはいるものの、具体的に活動を開始しようとしても、情報が不足しているために活動に至らない場合が多く、さらには、「ボランティア活動をしたいけれど、具体的に何がしたいのか自分自身もよくわからない」ということで、どのような活動に参加するかを選択することが困難な状況が生じている。

このような状況を打破するうえで欠かせないのが、ボランティアコーディネーションである。ボランティアコーディネーションとは、日本ボランティアコーディネーター協会 (JVCA) によると、「一人ひとりが社会を構成する重要な一員であることを自覚し、主体的・自発的に社会のさまざまな課題やテーマに取り組む」というボランティア活動の意義

を認め、その活動のプロセスで多様な人や組織が相互に対等な関係でつながり、新たな力を生み出せるように調整することにより、一人ひとりが市民社会づくりに参加することを可能にする働きである。また、奈良（2012）は、「社会のニーズ（課題）に対し、ボランティアしたい人の意志と能力や条件が合致するところに望ましいボランティア活動が可能になる。コーディネーターはニーズ、ボランティア、社会的環境など総合的に考慮して、両者を対等につなげていくことになる」としている。

そして、このようなボランティアコーディネーションの具体的機能としては、たとえば、巡（1996）は、①需給調整機能②情報提供機能③養成・教育機能④相談援助機能⑤調査・研究機能の5つを主要な機能として挙げている。また、山西（2009）は、ボランティアコーディネーションの担い手であるボランティアコーディネーターの専門性として、①「人と出会い、関係をつくる」②「課題を探る」③「リソースを発見しつなぐ」④「社会をデザインする」⑤「プログラムを作り、参加の場をつくる」、という5つの役割を挙げている。

以上のように、ボランティアコーディネーションは、ボランティア活動を活性化し、その質を高めるうえで、多様な働きを担っている。このようなボランティアコーディネーションのさらなる発展をめざすうえで、ボランティアコーディネーションに関する研究や実践報告の積み重ねは必須といえるであろう。しかしながら、そのような研究は、『日本ボランティアコーディネーター白書(大阪ボランティア協会)』における実践報告等をはじめ、示唆に富む研究が蓄積されつつあるものの、まだまだ少ないのが現状である。そこで、本研究では、2014年9月13日（土）・14日（日）、ドイツのミュンヘンで開催されたストリートライフ・フェスティバル（Streetlife Festival）を視察・調査して得られた情報をもとに、ストリートライフ・フェスティバルにおけるボランティアコーディネーションについて報告し、その特徴について考察する。

## 2. ストリートライフ・フェスティバルの概要

### (1) ストリートライフ・フェスティバルとは

ストリートライフ・フェスティバルとは、ミュンヘン市最大の歩行者天国において開催される市民祭りである。NPOの環境保護団体であるグリーンシティ（Green City）が、ミュンヘン市の健康環境局の協力を得て主催している。はじめて開催された2000年以降、例年、年2回（5月・6月および9月）、土日の二日間に開催されている。年間60万人以上の人が訪れ、後述のようなさまざまなテーマに関する展示や催しを楽しんでいる。

開催場所は、ミュンヘン市の中心部を南北に走るルードヴィヒ通りとレオポルト通りである。この両通りは、南北1.5kmにわたって連なっており、地下には地下鉄が通りを添うように走っている。ルードヴィヒ通りは、ルードヴィヒ1世の治世のもと敷設された大通りであり、歴史的にも都市工学の上でも注目に値する通りである。現在のルードヴィヒ通りは、ミュンヘン大学や州立図書館、さらにはカフェなどの飲食店が軒を連ね、若者が多く集まる活気に満ちた通りとなっている。

今回の実施の流れは、表1のとおりであった。この流れに沿って、各種展示や施設運営ほか、飲食店の販売やバンド演奏、絵画の展示などが行われていた。

表1 実施の流れ

2014年9月13日(土)	テント設営開始	12:30
	テント設営終了	15:30
	展示開始	16:00
	小売り終了	1:30
2014年9月14日(日)	テント設営開始	8:00
	テント設営終了	11:00
	展示開始	11:00
	小売り終了	20:00
	展示終了	21:00

## (2) ストリートライフ・フェスティバルの成り立ち

先述のとおり、ストリートライフ・フェスティバルは、環境保護団体のグリーンシティが主催している。グリーンシティの掲げるストリートライフ・フェスティバルのコンセプトはエコロジーである。それゆえ、後述するように、エコロジーに関連するいくつかのテーマに関わる出展が行われている。

また、例年、ストリートライフ・フェスティバルの開催に当たっては、グリーンシティやミュンヘン市の健康環境局だけではなく、多くの企業や組織が支援している。具体的には、今回の場合、スパルダ銀行(Spada Bank)が資金提供を行うほか、ミュンヘン交通(MVG:ミュンヘン市内の地下鉄・バス・トラムを運営)等の交通機関、代替エネルギー関連企業、自動車関連企業、インターネット関連企業、健康保険会社、ミュンヘン市清掃局などがストリートライフ・フェスティバルに協賛していた。また、広報にあたっては、南ドイツ新聞(Sueddeutsche Zeitung)をはじめとする新聞3社、ラジオ局(charivari95.5)およびミュンヘン市の協力を得ていた。

## (3) ストリートライフ・フェスティバルにおける出展テーマ

ストリートライフ・フェスティバルにおいて、飲食店や舞台などは分散的に配置されていたが、出展のテーマ別に開催エリアが分けられていた。多くの団体は、この分けに従って出展していた。なお、今回のテーマは、①環境、②モビリティ、③街づくり、④スポーツとライフスタイル、⑤家族と子育て、⑥社会福祉、⑦食物、の7つであった。テーマの設定は各回さまざまであるが、網羅される内容はおおむね共通したものとなっている。以下、今回の出展テーマのそれぞれについて、その概要を示す。

### ① 環境Umwelt

グリーンシティが主催しているテーマである。例えば、代替エネルギー、環境保護、地域の経済活動についての情報提供や、エネルギーに関する相談への対応などが行われていた。

### ② モビリティ Mobilitaet

モビリティとは、「移動可能性」や「移動できる能力」を指す言葉である。出展例は、

自転車、電気自動車、各種公共交通機関、カー・シェアリングなどについての情報提供などである。エコロジーの観点からの情報提供が行われていた。

### ③ 街づくりStadtgestaltung

魅力的な都市空間を作るうえでの情報が提供されていた。たとえば、ガーデニングやバルコニーでの植物の栽培などについて、情報提供がなされていた。

### ④ スポーツとライフスタイル

スケートボード、マウンテンバイクなどのスポーツについての情報提供や、スピードミントンなど新しいスポーツの紹介が行われていた。実際にそれらのスポーツを体験することが可能となっており、また、実演のショーが開催されていた。

### ⑤ 家族

ストリートライフ・フェスティバルは、どのような家族であっても、楽しむことのできる場となっている。子どもの年齢に応じた遊び場がさまざまに用意されていた。

### ⑥ 社会福祉

さまざまなNPOが、社会福祉（人権、ボランティア活動等）に関する情報提供を行っていた。また、健康をテーマとした展示や催しが行われていた。

### ⑦ 栄養

飲食店が販売を行うほか、地域の特産品や健康食品などを紹介する催しが行われていた。

## (4) 出展・出店の手続き

出展や出店にあたっては、インターネット上のWebサイトをとおして申し込む。このWebサイトは、グリーンシティが運営している。出展・出店の希望者は、自身に関する情報（責任者氏名、連絡先など）、出展・出店のテーマ、使用テントの面積、水道・電気の使用の有無など、必要な情報をWebサイト上の入力フォームに入力すればよい。

## (5) ストリートライフ・フェスティバルの広報

ストリートライフ・フェスティバルの集客に欠かせないのが広報である。広報は、以下のように重層的に行われている。

まず、(2)で挙げたように、新聞やラジオなどのマスメディアによって、また、ミュンヘン市のWebサイトによって、広報が行われている。さらに、ボランティア活動の観点から、“全国ボランティアネットワーク（BBE: Bundesnetzwerk Buergerschaftliches Engagement；以下、BBEと略記）”による広報も行われている。

BBEは、「ボランティアで強くなる！（engagement macht stark!）」という標語のもと、ドイツ国内全域にわたって、ボランティア活動を促進する団体である。BBEの活動は、多岐にわたる。その活動の1つが、ボランティア団体の広報イベントについての情報発信である。

ドイツ国内では、多くのボランティア団体（あるいはボランティアコーディネーションを行う団体）が、それぞれ独自に広報を目的としたイベントを開催している。BBEは、そのようなイベント情報を収集し、Webサイト上で公開している。Webサイトを訪れた人は、イベント開催日と開催エリア、そして、ボランティア活動の領域（例えば、教育、環

境など、計24種類)を選択することによって、自身の関心やアクセスしやすさなどの点で適したイベント情報を検索・入手することができる。ストリートライフ・フェスティバルについての情報は、このようなイベントの1つとして、BBEのWebサイトに掲載されている。

なお、BBEは、ドイツ政府の“家族・高齢者・婦人・青少年省 (Bundesministerium fuer Familie, senioren, Frauen und Jugend)”に関連する団体である。

### 3. ストリートライフ・フェスティバルにおける ボランティアコーディネーションの実際

ストリートライフ・フェスティバルには、さまざまなボランティア団体が出展し、ボランティアコーディネーションを行っていた。以下に、ボランティア団体およびボランティアコーディネーション団体の例を挙げる。

#### (1) 十字連盟 (Kreuzbund e.V.)

ドイツ・カリタス連合体に属する団体であり、嗜癪や依存症に苦しむ患者への支援を行っている。ストリートライフ・フェスティバルでは、以下のような情報の提供が行われていた。

まず、依存症に関する知識や情報の提供が行われていた。情報提供に際しては、クイズ形式を採用するなど、分かりやすく印象に残りやすくなるような工夫が施されていた。また、アルコールなど、依存物質の危険性に関するパンフレットが配布されていた。

また、十字連盟の活動についての情報提供がなされていた。十字連盟は、依存症者の自助グループに対する援助を行っている。依存症患者への支援として、自助グループの果たす役割は大きい。そして、このような自助グループは、多くのボランティアの支援によって成り立っている。

#### (2) 山岳森林プロジェクト (Bergwaldprojekt e.V.)

山岳森林プロジェクトは、ドイツ、オーストリア、スイス、ウクライナなどの森林生態系を守る活動を行う団体である。具体的には、植樹などの活動を行っている。活動の担い手はボランティアである。ストリートライフ・フェスティバルでは、活動に関する情報提供とともに、ボランティア募集の冊子が配布されていた。

#### (3) 1ドルのメガネ (Ein Dollar Brille e.V.)

開発途上国における視覚障害者支援を行う団体である。1ドルでメガネを1つ作ることができる、ということで、このような団体名となっている。この団体の活動は、具体的には、現地でのメガネの提供、メガネの製造方法の伝達、現地での製造、視力検査の方法の伝達などである。

ストリートライフ・フェスティバルでは、その簡易メガネの製造方法や製造のための器具が展示されていた。さらに、これらの活動を支えるための募金活動が行われていた。

#### (4) ディアコニー・ハーゼンベルグル (Diakonie Hasenberg e.V.)

ボランティアが集まって靴下を編み、その靴下をストリートライフ・フェスティバルやフリーマーケットなどで販売することにより、こども病院への寄付金を集めている団体である。具体的には、週に一度、約30人のボランティア(主として高齢女性)が編み物を行っている。活動開始からの10年間で5000ユーロ以上の収益があり、それらの収益はこども病院への寄付に充てられている。

ストリートライフ・フェスティバルでは、色とりどりの靴下が販売されるとともに、編み物をするボランティアの募集が行われていた。

#### (5) グーテ・タート (Gute-tat)

“今日、天使になろう”の標語のもと、ボランティアと受け入れ団体をつなぐ活動を行っている。具体的にはWebサイトを活用し、ボランティアと非営利のボランティア団体とのマッチングを行っている。ストリートライフ・フェスティバルでは、グーテ・タートの活動についての紹介と情報提供が行われていた。

### 4. ストリートライフ・フェスティバルにおける ボランティアコーディネーションの特徴

#### (1) ボランティアコーディネーションのアウトリーチ

ストリートライフ・フェスティバルがボランティアコーディネーションの場として機能するうえで、その前提となっているのは、多くのボランティア団体(ボランティアコーディネーションを行う団体を含む)が広報のためにイベントを開催しているという現状がある。広報イベント開催の意義は大きい。ボランティア団体は、イベント参加者に対し直接に自分たちの活動を紹介することができ、また、参加者の質問や疑問に対し、個別にかつ丁寧に対応することができるからである。参加者にとっても、ボランティア団体の担当者と同じかに対話する機会を得ることによって、自身のニーズに合致した情報を収集することができるであろう。

そして、このようなボランティア団体による広報イベントを、ストリートライフ・フェスティバルのような多種多様な人が集まる場で行うことには、次のような意義があるだろう。

まず、ボランティア団体のテントを訪れた人は、その場でボランティア活動に関わる機会を得ることができる。たとえば、先に述べたディアコニー・ハーゼンベルグルの場合、この団体が販売している靴下を買うことは、ボランティア活動に間接的に関わることに等しい。このように、ボランティア団体が出展することによって、人々は、手軽にボランティアに関わる機会を手に入れることができる。

また、ボランティア活動についてもともと関心をもっていた人であるならば、ボランティア団体の出展を目にすることによって、さらなる関心や意欲が喚起されるかもしれない。ボランティア団体の担当者に対話することができれば、なおのことである。さらに、ボランティア活動について、それまで特には関心をもたなかった人であっても、ボランティア団体の出展に触れることによって、それまで自覚せずにいたボランティア活動に対



する自身の意欲や関心に気づくかもしれない。つまり、ボランティア団体は、ストリートライフ・フェスティバルに出展することによって、市民のうちにある潜在的なボランティア活動参加へのニーズを掘り起こすことができるのではないだろうか。

さらに、ボランティア団体の出展を目にすることによって、人びとは、その団体の活動の背景にある社会問題について意識するであろう。そして、その問題意識が人びとの間で共有されるであろう。つまり、ボランティア団体の出展には、社会問題提起と問題意識の醸成という機能があるのではないだろうか。

人が集まる場においてボランティア活動に関する広報イベントを開催することは、ボランティアコーディネーションのアウトリーチとあってよい。そして、このようなアウトリーチには、以上のような意義があると考えられる。

## (2) 各種機関の連携

ストリートライフ・フェスティバルにおけるボランティアコーディネーションは、さまざまな機関の連携の上に成り立っている(図1)。たとえば、グリーンシティは市との連携のうえでストリートライフ・フェスティバルを主催しており、また、開催に当たっては、銀行、交通機関、出展テーマに関連する企業等の協力を得ている。また、情報発信には、新聞社、ラジオ局、BBEとの連携が機能している。

このような連携のもとにストリートライフ・フェスティバルが開催され、そこでボランティアコーディネーションが行われていることを考えれば、連携の形成自体が、ボランティアコーディネーションの一形態としてとらえられうるであろう。

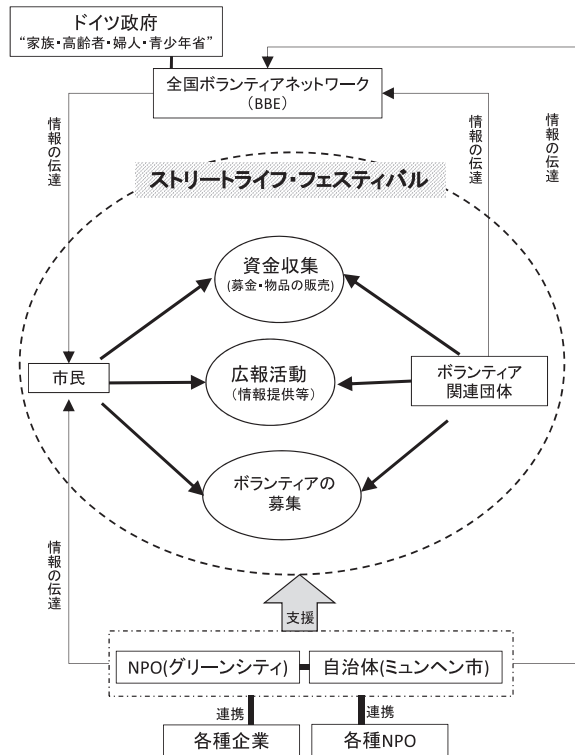


図1 ストリートライフ・フェスティバルにおけるボランティアコーディネーションの成り立ち

### (3) インターネットの活用

ストリートライフ・フェスティバルにおいて、インターネットは、市やBBEのWebサイトにストリートライフ・フェスティバルの情報が掲載されるなど、広報において有力なツールとなっている。また、ボランティア団体がストリートライフ・フェスティバルへの出展を申し込む際のツールもインターネットである。以上のように、ストリートライフ・フェスティバルにおけるボランティアコーディネーションにおいて、インターネットは多面的に活用されている。

### (4) 生態学的アプローチ

ストリートライフ・フェスティバルを主宰するグリーンシティは、ストリートライフ・フェスティバルのコンセプトとしてエコロジーを掲げている。すなわち、ストリートライフ・フェスティバルは、生態学的アプローチのもと開催されている。

生態学的アプローチに依拠することによって、ボランティアコーディネーションは、地域でのボランティア活動はもちろんのこと、地球の生態系にかかわるすべてのテーマ、すなわち、今回のストリートライフ・フェスティバルであれば、「環境」「モビリティ」「街づくり」「スポーツとライフスタイル」「家族と子育て」「社会福祉」「食物」の7つのテーマにかかわるボランティア活動と人々をつなぐ視座を得ることができる。

また、生態学的アプローチによって多様なテーマが共存することの結果として、幅広い層の人々がストリートライフ・フェスティバルに集まってくる。この集客の力は、生態学的アプローチによって導き出されているといつてよいであろう。

## 5. おわりに

これまで述べてきたような、ストリートライフ・フェスティバルにけるボランティアコーディネーションのあり方は、わが国におけるボランティアコーディネーションを発展させるうえで、大変参考になるであろう。たとえば、ボランティアコーディネーションのアウトリーチという観点からは、ボランティアコーディネーションの方法や場の選択肢を広げるうえでのヒントが得られるであろう。各種機関の連携のあり方からは、連携する機関の候補や選択肢を増やすうえでのアイデアが得られるかもしれない。インターネットの活用については、災害時におけるボランティアコーディネーションでの効果的利用（城，2014）など、わが国においてもすでに活用例が報告されているが、さらなる効果的活用の方法を考えるうえで参考になるであろう。生態学的アプローチに依拠すれば、ボランティア活動のさらなる領域を開拓し、人びととボランティア活動との新たなつながりを模索するうえでの視野が広がるであろう。

本研究では、ミュンヘン市でのストリートライフ・フェスティバルについて、ボランティアコーディネーションのあり方の観点から、その特徴と意義について考察した。他国におけるボランティアコーディネーションについての知見は、わが国におけるボランティアコーディネーションのあり方を相対化して理解するうえでの好材料であろうし、また、わが国のボランティアコーディネーションを発展させるうえでのアイデアをもたらすものであろう。グローバルな観点からの報告や研究が、今後も期待される。



## 引用文献

- 石井祐理子 2003 ボランティアコーディネーターの専門性に関する一考察：研修プログラムの課題  
京都光華女子大学研究紀要41, A271-A286.
- 城千聡 2014 災害時におけるインターネット情報発信ツールを活用したボランティアコーディネーション  
ボランティアコーディネーター白書2014年版(2011-2013年), 28-36.
- 巡静一 1996 実践ボランティア・コーディネーター 中央法規出版
- 奈良雅美 2012 「共感をつなぐ」ーボランティアコーディネーターの立場からー シリーズ多言語・  
多文化協働実践研究(15), 116-128.
- 山西優二 2009 多文化社会コーディネーターの専門性と形成の視点(論考 実践者による実践研究)  
シリーズ多言語・多文化協働実践研究11, 4-12.

## 参考Webサイト

Engagement macht stark

<http://www.engagement-macht-stark.de> (2015年1月5日)

日本ボランティアコーディネーター協会 (JVCA)

<http://www.jvca2001.org/> (2015年12月1日)

Streetlife Festival

<http://www.streetlife-festival.de> (2014年9月15日)

## 謝辞

本研究は、2014年度茨城キリスト教大学教育センター・プロジェクト研究助成事業の助成を受け実施された研究『学生のボランティア活動がもたらすマクロ効果とミクロ効果ー地域コミュニティ活性化への効果と学生の成長効果ー(研究代表者：富樫ひとみ先生(生活科学部))』の一環として行われました。

## Volunteer Coordination and the Munich Streetlife Festival

Yumiko SAKURAI

Volunteer coordination, which has been insufficiently researched, is necessary to foster volunteer activities. This study examines volunteer coordination in the Streetlife Festival in Munich, Germany. The festival is organized by an environmental NPO with an ecological approach; a great variety of people attend the exhibitions and go to the street stands. Volunteer groups and coordinating organizations inform festival attendees about their work, promote themselves and recruit new members. This study examines four facets of the volunteer coordination in the Streetlife Festival: group outreach for volunteer coordination, volunteer coordination being supported by organizations and companies, Internet and web sites being effectively utilized, and groups using an ecological approach to volunteer coordination.